

338

アウトドア技術・経験を災害時にも活用 「生きる力」を育むキャンプイベントの実施

取組主体【掲載年】	法人番号	事業者の種類【業種】	実施地域
株式会社スノーピーク 【平成 28 年】	3110001014316	その他事業者 【製造業】	新潟県

1 取組の概要

- 「非常時にも自活できるだろうか。家族を守るだけの力があるだろうか。」アウトドアメーカーの株式会社スノーピークでは、「キャンプが大好きな人がもっと増えたら、そんな不安は前向きに乗り越えられるはず」と考え、キャンプの楽しみをしながら防災を学ぶキャンプイベントを開催している。

2 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）

キャンプ体験会を開催し、快適なアウトドア生活の知識・技術を提供

- 同社製品の利用者アンケートにおいても、99%の利用者が「キャンプは災害時に役立つ」と回答している。この結果を受け、同社では、キャンプ道具を知り、使いながら、楽しく過ごす時間の中で防災について学ぶ「日帰り防災キャンプ」を実施することとした。



- 「日帰り防災キャンプ」では、アウトドアの知識を通じて「生きる力」につい

①スノーピークの考える防災についてチラシ配布。
日帰り防災イベント開催告知をし、WILD-1仙台泉店へ誘導。

②展示中のテントや寝袋を体験。興味を引くと同時にスノーピーク製品の高品質さを体感してもらう。

③キャンプ意向度が高い人に道具や使い方についてしっかりと説明。WILD-1仙台泉店へ誘導。

▲国連防災世界会議での展示の様子

て紹介している。平成 27 年 5 月に仙台で実施した際には、テントの設営や焚火台での湯沸しについては子どもたちが積極的に手伝うよう促すとともに、防災食の食べ比べ等を行った。またこれらの活動の後に、防災や自然の中で過ごすことについてフリーディスカッションを実施し、互いの気づきを共有することを試みている。

- また、平成 27 年 3 月の第 3 回国連防災世界会議において、会場間をつなぐ仙台市の定禅寺通りにテントや寝袋等を東北大学と出展、キャンプシーンを体験できる空間をつくり出し、同社の考える防災「そなえる」についてのチラシを配布するとともに、災害時に役立つキャンプ道具やその使い方について説明を行った。



▲アウトドアの知識を聞き入る参加者



▲火を起こす子どもたち

3 取組の平時における利活用の状況

- 同社では「防災キャンプ」と銘打つことがなくとも、キャンプの技術と経験が、「日常が非日常になる時、必ず生きてくる」と考えており、本社や各店舗等において、キャンプイベント等を積極的に実施している。50組から100組程度を募集する大規模なイベントだけでも、春から秋にかけて、毎月実施している。

4 取組の国土強靱化の推進への効果

- 同社では、キャンプイベント等を通じて、アウトドアの道具とその使い方を、親子に伝えることにより「声を掛け合い協力しあってテントを建てること」「夜の闇の中で眠ること」「火をおこし、焚き火を長く保つこと」「湯を沸かすこと」等、キャンプで当たり前に行っている技術と経験が有事の際の避難生活や支援活動に活かされることができると考えている。

5 防災・減災以外の効果

- 同社では、「人間性の回帰」や「自然との共存」を重視した企業活動を行っており、「キャンプイベント」を通して、こうしたライフスタイルを提案していくことが、総合的な事業活動の推進につながると考えている。

また参加者は、キャンプに家族や仲間と参加することにより、何も無いところから火を起こし、調理を行うといった「共同作業」を経験することができる。これにより、助け合いや信頼を育み、結束力を高めることにつながることもできる。

6 現状の課題・今後の展開など

- 初めてキャンプに参加する際のハードルを下げるため、キャンプイベントや設営講習会等を今後とも継続し、自然に親しむ人を増やしていく活動を同社では実施する予定である。